努力賞

親子の愛

汐入東小学校　五年　木谷　結里佳

柳田邦男先生、こんにちは。

私は、柳田先生が訳した『エリカ―奇跡のいのち』を読みました。私は、この本を去年選ばれたときにもらいました。このお話は、柳田先生も知っているように、ユダヤ人が何人も殺されている時（千九百三十三年～千九百四十五年）の間の千九百四十四年に生まれた女の人のお話です。その女の人も、赤ちゃんの時に、殺されかけました。しかし、お父さんとお母さんが列車から草むらに女の人（赤ちゃんの時）を投げて命を守るのですがある女性に助けてもらい、名前とたんじょう日を決めてもらうお話です。そして、名前はエリカです。

私は、お父さんとお母さんがエリカを投げるシーンが一番感動します。私は、家族が大好きです。しかし、お母さんとけんかしてしまうことがよくあります。私はその時、お母さんなんてきらいとよく思います。おこられた時もそうなります。私は、二年生の時家のかぎを忘れ、くもんにそのまま行き、夜にお母さんにおこられたことがあります。その時だけは、会えて良かったと思い泣いてしまいました。家に帰るとおばあちゃんも知っていたようで電話をしていました。それを聞くと、帰って来ていないことを知り、お母さんが探しても私がいなく、泣いていたことがわかりました。その時、お母さんも私のことが好きなんだと確められ、良かったです。エリカのお母さんとお父さんはエリカを愛しているから、生きる確率のある道を選んであの行いをしたんだと思いました。今は、殺人行いですが、この時は、これが生きる道だっ

たんだと思いました。

私は、この本を読み、親子の愛（きずな）は何よりも強いんだと思いました。私は、家族が大好きなので大切にしたいです。